



2025年2月28日

各位

会社名 アミタホールディングス株式会社  
代表者 代表取締役会長 兼 CVO 熊野英介  
(コード番号: 2195 東証グロース)  
問合せ先責任者 代表取締役社長 兼 CIO 末次貴英  
TEL (075) 277-0378 (代表)

## 連結子会社による固定資産の取得(新工場建設)に関するお知らせ

当社は、2025年2月28日付の取締役会において、当社の100%子会社であるアミタサーキュラー株式会社(以下、アミタサーキュラー(株))による固定資産の取得を決議いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 当該連結子会社の概要

(1) 名称	アミタサーキュラー株式会社
(2) 所在地	東京都千代田区神田駿河台四丁目3番地 新お茶の水ビルディング12階
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 土元 健司
(4) 事業内容	サーキュラーマテリアル事業 持続可能な調達・資源活用の総合ソリューション提供
(5) 資本金	200,000千円

#### 2. 投資の理由

近年の資源枯渇、国際情勢の不安定化を背景に、セメント製造における原燃料となる石炭、重油や粘土等の代替となる循環資源(廃棄物を原材料にしたリサイクル資源)の需要が高まっています。また、循環資源の製造現場においては少子高齢化時代に対応した機械化による省人化・無人化、労働環境の改善、安全性の向上、CO2排出削減のための動力の電力化などの課題が存在します。当社はこれらの需要および課題へ対応するため、循環資源を製造・提供するアミタサーキュラー(株)の姫路循環資源製造所の敷地内に、自動制御システムを導入した次世代型工場(以下、新工場)の新設を決定しました。投資額は約14億円(税抜)を予定しています。

新工場では、自動制御システムと連動した大型クレーンを導入し、製造工程の無人化を図ります。また、デジタル技術を駆使し、製造メーカーからの少量多品種の廃棄物の受入・再資源化ニーズや、循環資源ユーザー企業の多様化するサステナブル調達ニーズに対応する、カスタマイズ性の高い製品製造や新たな製品開発を実現します。新工場の操業開始は、2026年7月を目指しており、2027年度中には、アミタグループが「サーキュラー3.0」と位置づける製造工程の完全自動化を果たす計画です。

さらに、将来構想として、サプライチェーン上の資源情報をデータベース化し、生成AI等を利用して

サーキュラーエコノミーを促進するデジタルシステム「サーキュラー4.0」の実装を目指し、廃棄物の入荷から循環資源の製造、ユーザー企業への納品まで、最適かつ効率的なプロセスを実現します。

### 3. 新工場の革新性とサーキュラー3.0の位置づけ

#### <新工場の革新性>

#### ①細分化・高度化する循環資源ニーズへのカスタマイズ対応が可能に

##### 【循環資源のユーザー企業ニーズ】

- ⇒ 資源枯渇、国際情勢の不安定化、新興国の経済成長に伴う資源需要増等によるサステナブル調達ニーズの増大
- ⇒ 求める循環資源の規格の厳密化、多様化

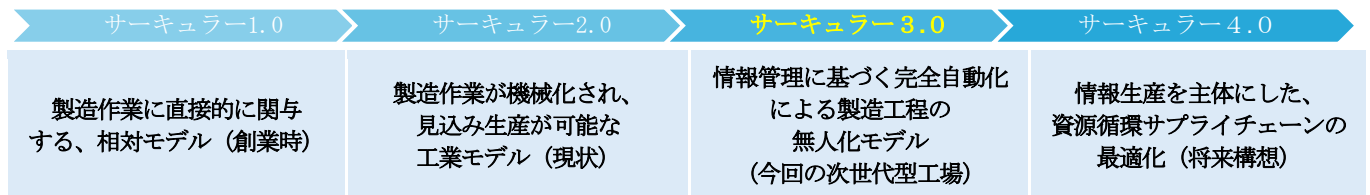
##### 【廃棄物の発生元企業ニーズ】

- ⇒ 大量生産・大量消費型のビジネスモデルの終焉により、少量多品種化した廃棄物の100%再資源化

#### ②循環資源製造事業の持続性向上

製造工程の完全自動化による自社製造所の労働環境改善、人財確保の課題解消、カーボンニュートラル等

#### <サーキュラー3.0の位置づけ>



### 4. 新工場の概要ともたらす効果

新工場では、自動制御システムと連動した大型クレーンを用いて、主にセメント産業向けの循環資源であるセメント原料系・燃料系を製造します。2026年7月の操業開始を目指し、2027年度中の製造工程<sup>※1</sup>の完全自動化（サーキュラー3.0の実現）を計画しています。今後は他の自社製造所でもデジタル化を進め、製造業務の高度化・自動化を検討していくとともに、将来的には本次世代型工場の仕組みをパッケージ化し、省力化ニーズの高い国内外企業への提供・展開をしていくことも視野に入れています。

※1：倉庫管理業務にあたる原料の荷下ろし・搬入作業を除く

#### 効果① 循環資源の提供価値の向上

新工場では、大型クレーンの導入により、製造工程における重機の利用がなくなるため、重機の可動スペースが不要となり、工場面積を最大限に活用した原材料および製品の保管が可能となります。同時期に保管できる原料および製品の種類数が大幅に増加することにより、ユーザー企業のサステナブル調達ニーズに対応した、多品種の循環資源のカスタマイズ製造が可能となる見込みです。

		現在の工場	製造工程の完全自動化後の新工場(2027年)
同時期に保管できる種類数	原料	7～10種類程度	18種類
	製品	4種類	19種類

## 効果② 労働環境の改善

製造工程が自動化されることで、現場作業者の重機作業が無くなります。重機操縦による事故リスクや発塵による健康影響リスクが低減するため、製造所従業員の満足度が向上し、人財の確保や定着へつなぐと考える。また、自動化により創出される人財を、中長期経営計画に基づく注力事業に再配置するなどし、グループ全体の価値向上を実現します。

	現在の工場	製造工程の完全自動化後の新工場(2027年)
具体的な製造業務	現場での重機搭乗・操作	自動制御システムの遠隔管理
現場作業数	4名	0名

## 効果③ 脱炭素への貢献

新工場の製造設備では再生可能エネルギー由来の電力を使用し、カーボンニュートラルを実現します。

	現在の工場	製造工程の完全自動化後の新工場(2027年)
エネルギー	軽油 <sup>※2</sup> / 電気 <sup>※3</sup>	電気 <sup>※4</sup>
年間のCO2排出量	55.2t-CO2	0t-CO2

※2：重機の動力 ※3：混合機等の動力 ※4：大型クレーン、混合機、電動リフト等の動力

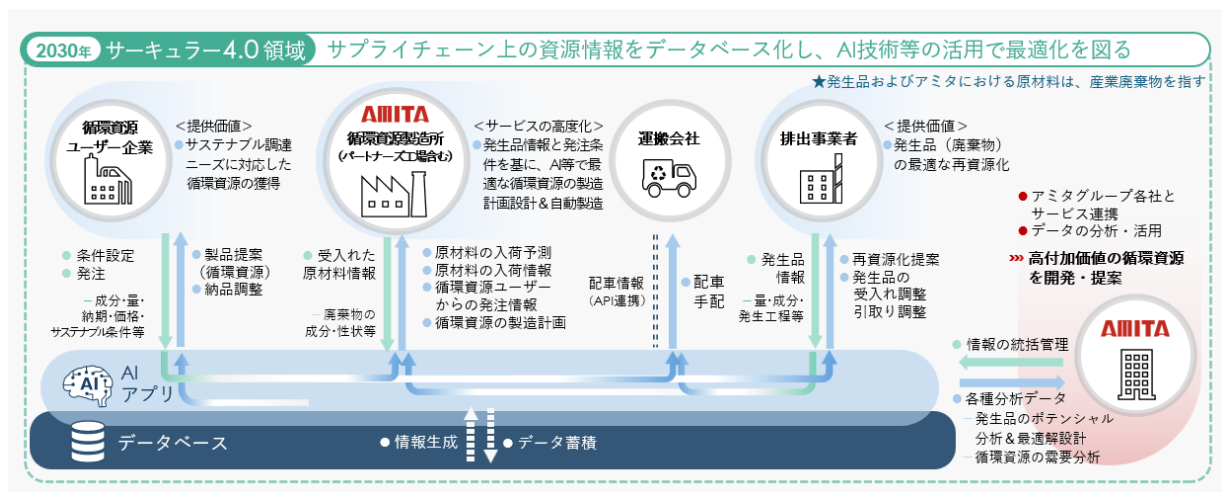
## 効果④ 中長期的な製造コストの低減

重機にかかる管理コストの削減、エネルギーの電化による燃料費の削減、製造工程の無人化による労務管理費の削減等により、中長期的な製造コストの低減が見込めます。

## 5. 「サーキュラー4.0」の概要

「サーキュラー4.0」は、循環資源のユーザー企業のニーズを起点に、排出元企業・循環資源のユーザー企業・物流会社等が持つリアルタイム情報をもとに、生成AIで効率的な資源循環を設計することで、廃棄物の入荷・循環資源の製造・出荷・納品の最適化を実現するデジタルシステム構想です。現在、経済産業省が主導し、循環型社会の実現に向けた動脈・静脈の全サプライチェーンの最適化を実現する、業界を横断したシステム連携「ウラノス・エコシステム」の開発を進めています。アミタの「サーキュラー4.0」は、この国家取り組みの流れに即したものです。

<サーキュラー4.0のイメージ>



## 6. アミタグループの循環資源の製造・提供サービスについて

廃棄物を原料に天然資源代替となる循環資源を製造する本サービスは、排出元企業の「廃棄物の単純焼却・最終処分」と「関連する温室効果ガス排出」のダブルゼロと、循環資源ユーザー企業のサステナブル調達を叶えることで、企業のサーキュラーエコノミーの推進を支援しています。

<関連サイト>

- [循環資源の製造・提供サービスの詳細](#)
- [アミタグループ製造拠点（姫路循環資源製造所）の詳細](#)

## 7. 投資予定資産の内容

(1) 所在地	兵庫県姫路市網干区浜田 1287 番地 9 号
(2) 投資内容	建屋および生産設備
(3) 投資総額 (税抜)	1,369,600 千円
(4) 資金計画 (予定)	銀行借入およびリース 詳細につきましては決定次第お知らせいたします。
(5) 施設規模 (計画)	工場施工床面積 1925.85 m <sup>2</sup>

## 8. 取得の日程

(1) 取締役会決議日	2025 年 2 月 28 日
(2) 着工及び工事期間 (予定)	2025 年 5 月～2026 年 6 月
(3) 稼働予定日	2026 年 7 月

## 9. 今後の見通し

当該固定資産の取得による 2025 年 12 月期の連結業績予想に与える影響はありません。なお、2026 年 12 月期以降の影響につきましては、状況に応じて精査し、開示すべき事項が生じた際には速やかに開示いたします。

以 上

### ■関連リリース

2024 年 4 月 15 日

[アミタ HD、姫路循環資源製造所内に次世代型工場の新設を決定](#)

2024 年 4 月 15 日

[DX 推進によりシリコンリサイクルの省人運転を開始](#)